

訪問看護ステーション 連絡協議会だより

第19号

発行年月 2010年2月
 発行所 岡山県訪問看護ステーション
 連絡協議会
 〒703-8251 岡山市中区竹田155-7
 岡山訪問看護ステーション看護協会2階
 TEL086-901-1375・FAX086-901-1376
 http://okayama.houmonkango.net/
 E-mail okayama@space.ocn.ne.jp
 発行責任者 若林 敏子

新年のご挨拶

岡山県訪問看護ステーション連絡協議会

会長 若林 敏子

会員の皆様方には輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。
 時の流れは早いもので、21世紀も10年が経過し節目の年、新たな変革の時代を迎えました。
 昨年は協議会の事業推進にご協力いただき、ありがとうございました。おかげさまで協議会も充実発展し、社会的認識の拡大とともに事業に対する高い評価を頂いています。これも皆様方のご支援ご協力の賜物と感謝申し上げます。

さて、昨年は、世相を表す漢字が「新」でした。政権が交代し新しい政権となり大きな変革がありました。また、新型インフルエンザの大流行で世の中を騒然とさせました。日本訪問看護振興財団が設立15年を迎えられ15周年を記念して、訪問看護・在宅ケアの推進に向けていかに育て、つないでいくかについて、「育てる、つなげる在宅ケア」をメインテーマに「訪問看護サミット」が開催されました。その中で「訪問看護は、国の政策誘導だけでなく、在宅医療が国民の期待に変化している。医療のない安らかな死を迎えたいと願っている」と強調されました。当協議会も今年度は設立14年を迎えています。今後ますます在宅ケアの重要性が叫ばれる中、どう応えていくかが問われてきます。訪問看護師がとなり、他職種ともつながって、地域のケア力を上げるとともに、病気や障害があっても、住み慣れた地域で身近な人たちと出来るだけ長く生活したい、と願っている多くの人の思いを叶えるために、訪問看護は大きな役割を担っています。看護の原点は在宅にあり、看護の専門性を持って、生活者の視点から支えていくことがその役割でもあると考えます。協議会としても皆様方が一層訪問看護活動に専念出来、そして在宅療養者へ質の高いケアの提供に努められるよう支援していきたく思います。
 新しい年が皆様にとりまして素晴らしい一年でありますよう、そしてご活躍とご健康を祈念し、今年も何卒ご支援のほどよろしくお願いいたします。

平成22年度年間研修計画(案)

新設のステーション紹介

日程	テーマとねらい	講師	場所
7月 10日	在宅での看取りのケアと記録 利用者、家族の意向を尊重した看取り ケア(エンゼルケアを含む)と看護記 録のポイントを学ぶ	(財)日本訪問看護振興財団 事業部長 角田 直枝	岡山
7~8月 交渉中	訪問看護における看護倫理・個人情報保護 訪問看護における看護倫理、個人情 報、プライバシー保護について学ぶ	こまつ訪問看護ステーション 管理者 小牧 実千代	岡山
9月	浮腫療法 ~上下肢を中心に~ リンパマッサージを学び、看護ケアに いかす	済生会病院 リハビリテーション科 PT 中桐 三香	倉敷
10月	在宅でできる言語療法 言語聴覚士からケアの方法を学び、 訪問看護の実践に生かす	交渉中	津山
11月	神経性難病患者の看護 ~進行性筋萎縮性麻痺・ALS・小脳変性症~ 疾患の理解を深め、事例を通して看護 の実際を学ぶ	神経内科クリニックなんば 院長 難波 玲子 岡山大学大学院保健学研究科 教授 谷垣 静子	岡山

「新たな出発」
 訪問看護ステーション 管理者 玉谷弘美
 長年、医療法人で勤めていた前職場を飛び出し、昨年10月1日付け、(株)ハートナース「訪問看護ステーション絆」を開設しました。信頼と絆で結ばれたあなたのパートナーナースとしてお役に立ちたいとの想いが込められています。又、8月にも訪問ボランティアナースの会「キャンパス岡山」も開設。家族介護者のレスパイトを目的にしたナースの支援ですが、キャンパス代表の菅原さんは一人の地域を支えるナースが立ち上げれば多くの方の支援ができる。その為には2.5人の制度にとらわれず出来る範囲でかかり付けナースの存在で「星降るほどのステーション」を目指しています。12月にはキャンパス松戸に鳩山総理が視察に訪れ、ステーションの必要性と2.5人の問題も話されていたそうです。私のような小規模ステーションには朗報でした。今後、同じ想いのある仲間達と共に前進していきたいと思えます。パートナー会員募集中。どうぞ宜しくお願いいたします。

※詳細につきましては、研修会開催1か月前までに、郵送にてご案内いたします。

「利用者・家族と共に」

訪問看護ステーション サクラ 管理者 小豆 晶代

当STでは毎年利用者、家族に満足度アンケートを行っています。平成21年のアンケートでも温かいお言葉をたくさん頂きました。

○親切に対応して下さり本人・家族共々大変喜んでいきます。

○好感を持ちました。また困った時にはお願いします。

等

平成21年は有り難い事に訪問依頼が多く、たくさんのお会いがありました。その反面忙しさに流されそうになり、もう少し楽な仕事がいいなと思う事も多々ありました。けれどなぜ訪問看護を辞めないのか？利用者・家族と一緒に考えたり、悩んだり、喜んだりしながら瞬間を共有できる事もあります。訪問看護を通じて、たくさんの方から元気をいただく事が仕事の原動力になっているのだと思います。今まで出会った多くの方から本当にたくさんの事を学ばせていただきました。支えているのではなく、周囲の方に支えられているという事を今回のアンケートを通じて実感しました。今年度の当法人の目標は“共に生きる”。利用者、家族、他職種の方や上司、頼もしいスタッフと共に1日1日を大切に過ごしていきたいと思えます。

ステーションからのお知らせ

「認知症ケア」

恵風会訪問看護ステーションくにとみ 管理者 国末 恵子

4年前、訪問看護に携わるようになり訪問していた事例です。90歳男性、認知症のため介護者の娘さんとも顔を合わせると喧嘩になり、暴言・物を投げるなどあり、日中は娘さんも家ですごせず外出している状態でした。高校野球に3回出場したことが自慢でしたが、お腹がすくとお菓子やジュースで食事を済ませる為、栄養失調と廃用症候群による転倒を繰り返していました。機嫌が悪いと、便・尿失禁や食べこぼしなどで汚染していても、ケア出来ず困っていました。ある日訪問すると、トイレで排便後に便器についた便を手できれいにしており「ここはみんなが使うから、綺麗にせんと」とはにかんで言われました。問題行動や拒否が強く、難しい利用者として認識していましたが、『人に迷惑をかけたくない』という強い思いを感じました。その後の訪問では、本人の自尊心を損なわないように配慮することで、以前よりスムーズにケア出来ることが増えました。

認知症の人のつらい気持ちを感じ、介護者の切羽詰まったやり場のない思いとともに悩み、一緒に考え学ぶことが多々ありました。2年前、老健に入所しましたが忘れられない症例です。微力ですが、利用者や家族に寄り添った看護が出来るよう、日々がんばっていききたいと思います。

平成21年度訪問看護管理者研修会を終えて

訪問看護ステーション紙ふうせん 管理者 玉置 君江

「今回の管理者研修会の内容はレベルが高かったよね。」「コスト意識が強まったね。」「次年度も受けてみたいわ。」岡山B地区の管理者会において、今回の管理者研修の伝達講習会を設けた時の感想である。

岡山県104箇所のステーション管理者に案内をしたところ、約半数の申し込みがあった。3日間連続での研修参加が条件だったが、予想外の好出席率。そして、B地区でも感想があったように3日間、4名の講師の方たちの講義はいずれも反響あり。

訪問看護認定看護師である岐阜県看護協会訪問看護統括所長、野崎加世子先生は私たちと同じ、現在も所長をされていることで同じ目線での講義のため、発せられる言葉一つ一つ理解でき、休憩時間の数分も先生の所に押しかけて話しを聞くという有様。

元済生会三田訪問看護ステーション所長、皮膚・排泄ケア認定看護師である山陽学園大学看護部准教授、藤原泰子先生は、管理者として実践できる『訪問看護サービス質評価のためのガイドライン』、また在宅における褥瘡処置を予防も含め、指導・実践を盛り

込んだものを教えてくださった。

岡山県看護協会顧問税理士、奥田俊彦先生は数字から見て、分析する管理面の大切さと労務における人材の重要性を教えてくださいました。経営管理だけでなく人材確保、労務トラブルの解消の鍵になる就業規則の大切さを学び、今までにない研修内容に満足。

みつ訪問看護ステーション看護協会所長、江田純子先生はグループワークを中心にした内容。まさに私たちが求めていたもの。半日であったが一日の講義に延ばしてもらいたいくらい、3日間だったこともあり、グループ一人一人まだ話足りない状況だった。

岡山県訪問看護ステーション全体のレベル向上、管理者の管理能力、訪問看護師の人材育成、そして現状の訪問看護ステーションの課題や解決方策を目的として研修は今後もぜひとも継続していただきたいと切に願う。

3日間、私は自転車で行った。私の行きと帰りの自転車のペダルをこぐ足の力には変化が見られた。ありがとうございました。

「信頼関係をつくるコミュニケーションII ～訪問看護でコーチングを活かす～」に参加して

倉敷しげい訪問看護ステーション 管理者 大野 幸恵



平成21年9月19日、倉敷中央病院研修センターにてSKYWARD代表取締役の寺崎光宣先生に今年も講義と演習をしていただきました。

コーチングとは「人に対する興味を示すこと」であり、まずコミュニケーションを取

るために必要なことは自己紹介であり、自分が安心・安全な関係ですよ、と相手に信頼してもらうことが大切であると話されました。訪問看護の大変さは、サービスを相手の生活圏に出向いて行わなければならないことで、病院は自分の領域に来てもらって看護するのでコミュニケーションは取りやすいが、相手の生活圏に踏み込むので幅広く柔軟な対応が必要となる。その為にはコミュニケーションスキルを磨くことでありコーチングをとりいれることが重要であると学びました。

コーチングの3つの要素とは

①人間観

人は違う「I am OK」「YOU are OK」

「win/win どちらでもいいんだよ」

主役は相手、コミュニケーションのとり方は皆違うんだよと言う事

②コミュニケーションスキル

コーチングとは教えることではなく、引き出してやることである。引き出してやることで自発性・自立性を習慣づけていくことであり、話を引き出してやりながら聴くこと、質問してやることである。

それには①共にいる②聴く③質問する④伝える⑤承認することである

③仕組み

前回はどうだったよね、といつもあなたのことに興味・関心を持っていますよ。そして次はどのように接したらよいかを考えておくこと。

訪問看護ではチームできちんと把握しておき、あなたのことはいつも皆で話しあっていますよと感じてもらうことが大切である。

コーチングとは①②③が三位一体となり、相手が正直に話しやすい関係をつくり、効果的な質問や聴き方によって、相手に十分に話さきってもらうことで、相手自身に気づきや行動を生み出すものである。

と教えていただきました。傾聴の演習では2人体制でお互いに「最近うれしかったこと」「今までで一番輝いた時期」の話をして、無視した態度で聴いたときと、一生懸命相手の話を相づちをうち、目をみて聴いた時の相手の感じ方がどのように違うか、実際に演習してみました。実習とはいいながら非常にその違いがよくわかり、今後の業務だけでなく日常生活においても非常に役立つ講義でした。

『認知症のひとの看護 ～レビー小体を中心に～』を終えて

さとう記念病院訪問看護ステーション 下村 明世 (津山地区 研修委員)

10月31日に津山で開催しました。

午前は、レビー小体の事例検討を行いました。レビー小体特有の症状を話し合える機会になりました。午後からは、積善病院から精神認定看護師の近藤秀樹先生にご講演いただきました。先生が経験されたレビー小体の事例も数例紹介され、事例を通して「その人の認知症状だけでなく、身体的な訴えに対して耳を傾けること。そして、その訴えを整理してケアを行うことが大切である」ことを学び、私たちは、日々訪問看護を展開していく中で、認知症の利用者とその家族と向き合うことが多くあります。それぞれ症状は異なりますが、不安・とまどい・困惑を傾聴し、認知症の人の世界を認め、理解することで、新たなケアが見出せていくものと感じました。



「リンパマッサージを学び 看護ケアにいかす」に参加して

オリーブ訪問看護ステーション 坂本英子

平成21年11月14日岡山県看護研修センターにて済生会病院リハビリテーション科PT中桐三香氏をお招きし、「浮腫療法」リンパマッサージを学び看護ケアにいかす、の講演及び実技をしていただきました。午前中の講義では、浮腫の定義・評価法・リンパの流れなどの講義があり、午後からはリンパドレナージュの実技を受けました。リンパ浮腫のマッサージでは一般的なマッサージとは異なり、軽く撫でるように行いますので、ゆっくり優しく行います。手技もリンパは誘導するようにとにかくゆっくりゆっくりおこないます。この手技が簡単そうで難しい、つい力が入ってしまいそうになりました。中桐先生と二人のPTさんに細かい手技、動き等、とても丁寧に教えていただきました。マッサージは人間関係を良くするのに大変効果があり利用者とのコミュニケーションを取るのに大切な事だと、再確認しました。在宅看護では、寝たきりの方が多くいろんな意味で看護者の技術の向上は、利用者の安全と安心、安楽を提供する上でとても大切なことです。これからも良い手助けが出来たらと思います。



「呼吸管理」の研修会に参加して

倉敷中央訪問看護ステーション 宮脇美代子

午前中に「人工呼吸器の管理について」と題し南岡山医療センターの斎藤智彦先生により講義をいただきました。「人工呼吸器を知るには、まず正常な呼吸整理を理解すること、呼吸不全の病態を理解し、正常な状態と何が違うかを理解する。その上で人工呼吸器がどのように呼吸を補助しているかを知る必要がある。」ということで呼吸器の解剖・呼吸の3要素について具体的に判りやすく説明をして下さいました。午後からは、長崎大学の千住秀明先生に「呼吸リハビ

リテーションについて」と題し講義と実技を行いました。呼吸管理は大切であるが、苦手意識をもっていたので聞きたい研修でした。基礎的な正常の呼吸を分りやすく教えていただき、午後は、訪問の実際の場面で役に立つ知識と聴診の仕方やスクイーミングのやり方などを実際に行い、もっと勉強して実際に役立てたいという思いにかられる研修会でした。有意義な研修に参加できありがとうございました。

倉敷・総社地区活動報告

「訪問看護ステーションで出来る災害時の備えと対応について」

ヘイセイ訪問看護ステーション 管理者 山本和恵

岡山県は災害の少ない土地柄ですが、昨年の美作地区の水害では大規模な被害があり死者も出ています。又、南海地震も近い将来に起こる事が予測されています。

そこで以下を目的に倉敷・総社地区の管理者会議がH21年11月19日に開催されました。

- 1、行政の防災対策とステーションの取り組みの現状を情報交換し各ステーションの防災マニュアルを見直す。
- 2、医療依存度の高い方の災害対応マニュアルを作成する。
- 3、ステーション間で協力できる体制を検討する。

当日は、倉敷市保健所の難病担当の保健師さん2名を含む合計22名の参加でした。

各ステーションの現状は、マニュアルがなかったり、実際の取り組みは出来ていないという事業所が殆どでした。しかし、緊急連絡の予行や安否確認・緊急出動の優先度をカルテに表示したり、役割分担をしたりと積極的に取り組まれているステーションもありました。

保健師さんからは倉敷市の防災危機管理室で配信している非常時緊急連絡の携帯メール登録の紹介等がありました。

事前に保健師さんと役員で打ち合わせをしておいた利用者個別の災害対応マニュアルの見直し、活用のしかた等が話し合われました。

広域を訪問しているステーションでは、地域の災害状況が解りづらい為、その地区のステーションと情報交換や協力ができればという意見がありました。

来年度にかけても継続して意見交換をしていく予定です。

備えあれば憂いなし。地域のステーション同士や行政と有効に協力して災害時にも役立つ事ができればと思いました。

ウィズフェスティバル2009講演会を開催して



11月13日(金)ウィズフェスティバル2009にて、みつ訪問看護ステーション看護協会の江田純子氏による、具体的な介護「着替え・体の動かし方・おむつ交換」の方法およびこつを実践しながらの講演会を開催いたしました。

介護職の方、一般の方など5名の方の参加があり、

- ・具体的に実践できとてもよかった。どうしてそうしないといけないのか、という理論も交えて教えていただき、よかった。日々の生活で活かせることもたくさんあった。
- ・介護のこつを体得することは、相手も自分も気持ちと体の負担を軽くすることができること。それを実技で教えて頂き、とてもよかった。

等のご感想をいただきました。

少人数での会であったため、講師と受講者がわきあいがいと直接対話もでき、とても楽しく得るものも多い2時間だったと思います。

ご家庭での療養生活がより安心・安楽となり、心身とも負担の軽減に繋がると幸いです。

事務局より

昨年中は、大変お世話になりました。

今年も、どうぞよろしくお願いたします。

昨年10月には、実態調査のアンケートのご協力ありがとうございました。お陰様にて、ほとんどのステーションの皆様にご提出いただきました。(回収率97パーセント)

この結果は、利用者様、他職種の方々、ステーション同士によりよい連携の一助として、活用させていただきます。

何か、ご意見等ございましたら、お気軽にメール・FAXにてお送りください。お待ちしております。

e-mail: okayama@space.ocn.ne.jp

FAX: 086-901-1375

利用者の声

児島中央訪問看護ステーション

事業所がオープンして1年が経ちました。区切りの時期に利用者様へ満足度調査を行い、看護サービスの評価を行ないました。

対象：平成21年11月1日現在利用中の利用者124名
回収は82名(回収率66.1%)

◇ 看護サービスに満足しているか

- ◆ 大変満足 41名 (50%)
- ◆ まあまあ満足 28名 (34%)
- ◆ どちらともいえない 12名 (15%)
- ◆ あまり満足していない 1名 (1%)
- ◆ 不満 0名

◇ 利用者からの声

- ◆ 介護を受けている人であった話かけやスキンシップをしてくれるので信頼できます。
- ◆ 専門的なアドバイスをしてくれるので助かります。
- ◆ 家で介護していると咳一つ出てもきになり、深夜でも電話に出ただけなので安心します。
- ◆ 日常生活が送れるようにリハビリの先生がわかりやすく本人に説明しながらしてくれて安心です。
- ◆ みなさんととても明るく気さくでなによりです。他、たくさんご意見いただきました。

まだ1年ですがいい声ばかりで逆にびっくりしております。これに満足せず、看護サービスの質の向上を図り、スタッフ一同で頑張っていきたいと思っております。

編集後記

新型インフルエンザが猛威を振るった平成21年度が終わり、新年を迎え徐々に下火となり落ち着いてきましたが、予防注射等皆様のステーションも、余波で大変だったと思います。体調にはくれぐれも気をつけてください。

地球温暖化が問題になっている昨今、地球に優しい訪問看護師さん、利用者様に優しい看護師さん、今年も笑顔で頑張ってください。